

令和3年度スポーツツーリズム推進事業 (自転車活用まちづくり事業)

概要

令和4年7月
山形県寒河江市

自転車を活用したまちづくりの推進（H28～H30年度）

さがえ
未来
創成

＜寒河江市のまちづくり＞

- ・ 稼ぐまちづくり及び人が集うまちづくりの観点から・・・新たな視点でのまちづくりを推進
- ・ スポーツ振興などの他の政策分野と連携したイベントの実施などを通じて、訪日外国人を含む観光客数及び宿泊者数の増加並びに各種イベントの域外参加率向上を図る

＜自転車活用まちづくり協議会（事務局：寒河江市企画創成課）＞

＜平成28年度＞

- ・ 自転車イベント（ストライダーエンジョイカップ さくらんぼステージ）
- ・ サイクリングコース設定（寒河江市～上山市）

＜平成29年度＞

- ・ 自転車イベント（ストライダー+シクロクロス+BMX（+ツールド））
- ・ 自転車拠点整備（シャワールーム等整備（グリバーさがえ））
- ・ 自転車コミュニティ形成（オーナーズミーティング/ストライダー整備）



＜平成30年度＞

- ・ 自転車イベント（ストライダー夏秋2回開催 + シクロクロス（+ツールド））
- ・ 自転車拠点整備（シャワールーム等運用開始（グリバーさがえ））
- ・ 自転車競技普及活動（市内幼稚園等でのストライダー体験会実施）
- ・ 寒河江市自転車活用推進計画策定（H31.3）



自転車を核とした持続的なまちづくり

自転車を活用したまちづくり⇒スポーツツーリズム推進

さがえ
未来
創成

＜平成28～30年度＞自転車を核とした持続的なまちづくりに一定の成果

成果と課題：

- ★自転車を活用したイベント⇒交流人口拡大の可能性を確認、ノウハウ蓄積
- ★参加者数が多いが、宿泊者数増に結び付きにくい
 - ⇒近隣参加者＋域外参加率向上の取り組み必要
 - ⇒自転車＋各種スポーツとの連携必要

＜令和元年度～3年度＞スポーツツーリズム推進によるまちづくり

- ・自転車イベント⇒内容見直し継続、連携による発展
(ツールド：ターゲット層追加による参加者数増、ストライダー：初夏⇒秋に季節変更など)
- ・既存インフラ等を活かしたイベント展開
 - ⇒グリバーさがえ(多目的水面広場)、ふるさと総合公園、道の駅チェリーランド、最上川、寒河江川、葉山
 - ⇒多様なスポーツを観光にドッキング(さくらんぼマラソン、トライアスロン等)
- ・オリパラ関連事業(スケードボード：韓国とホストタウン協定)と連携、ポスト2020
- ・障がい者にやさしいまちづくり⇒パラスポーツイベントの開催等

地域資源を活用したスポーツ振興



観光振興

稼ぐまちづくり・人が集うまちづくり

さがえ
未来
創成

走行順路は参加者の自由だが、スペシャルデーのみ通れる道など、主要な地点を巡る「推奨コース」を設定

マラソン大会

※別紙②報告書有

さがえ
未来
創成

＜第45回“さがえ”さくらんぼマラソン大会＞

- ・ 2021年で45回目となる歴史あるマラソン大会。
- ・ 2019年に市内ビュースポットなどを巡るコースにリニューアルし、参加者2,819人（過去最高）となったが、2020年はコロナ禍により中止。
- ・ **2021年はスマホアプリを活用したオンライン大会として実施。**
- ・ **大会期間中（6/14～6/27）の累計走行距離を競った。（市外走行も可）**
- ・ **期間中、市内推奨コース設定、スマホアプリを通じたライブ配信等を実施。**



＜2021エントリー 2,070人＞

県外：91.1% 市外：99.2%

通常大会との相違

- ・ 域外比率の増（2019時は県外56%、市外95%）
- ・ 全都道府県からの参加（大会史上初）
- ・ 参加者が実際に市に訪れたか、経済効果等が測れない（計測し難い）
- ・ アプリ活用、ライブ配信等により、参加者との相互交流やSNSを介した情報拡散が見られた

その他の内訳

奈良県	23人	高知県	14人
富山県	22人	和歌山県	12人
広島県	22人	香川県	12人
鹿児島県	21人	福井県	10人
三重県	20人	島根県	10人
岩手県	18人	鳥取県	8人
熊本県	18人	山梨県	7人
青森県	17人	佐賀県	7人
栃木県	17人	長崎県	6人
沖縄県	17人	宮崎県	3人
滋賀県	15人	大分県	2人

抽選で男女各1名 木1本分のさくらんぼ「紅秀峰」プレゼント!

- 収穫の際は、原則、来訪して収穫していただきます。
- 都合等で収穫に来れない場合は、10kg分を配送いたします。（最大3箇所まで）

全員プレゼント

慈恩寺健康・健脚・若返り新薬「スポーツタル」

選べる参加賞

● さくらんぼの希望の方は、「さくらんぼの品質維持」のため、原則、来訪して受け取り可能な方のみとさせていただきます。

1 寒河江市産「さくらんぼ（佐藤錦）500g」

2 ミズノ/大会記念「オリジナルTシャツ」と「オリジナルスポーツマスク」

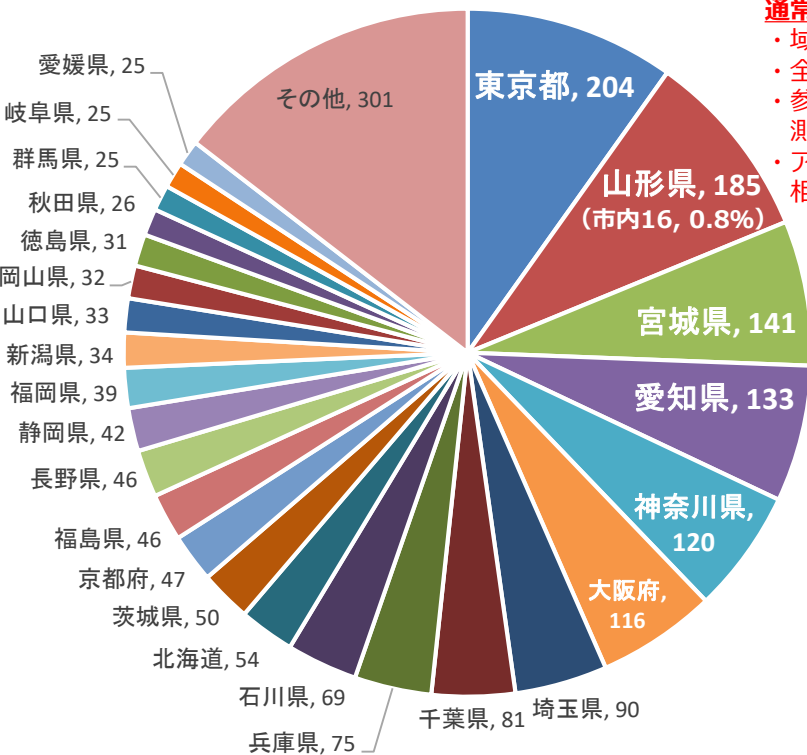
第45回“さがえ”さくらんぼマラソン2021 オンライン大会

推奨コース紹介

10km 慈恩寺周辺 パワースポットコース

第45回“さがえ”さくらんぼマラソン2021 オンライン大会10km推奨コース「慈恩寺周辺 パワースポットコース」

74回視聴 2021/06/13 第45回“さがえ”さくらんぼマラソン2021 オンライン大会10km推奨コース「慈恩寺周辺 パワースポットコース」の紹介動画です。



ストライダー（幼児向けランニングバイク）※別紙③ 報告書有

さがえ
未来
創成

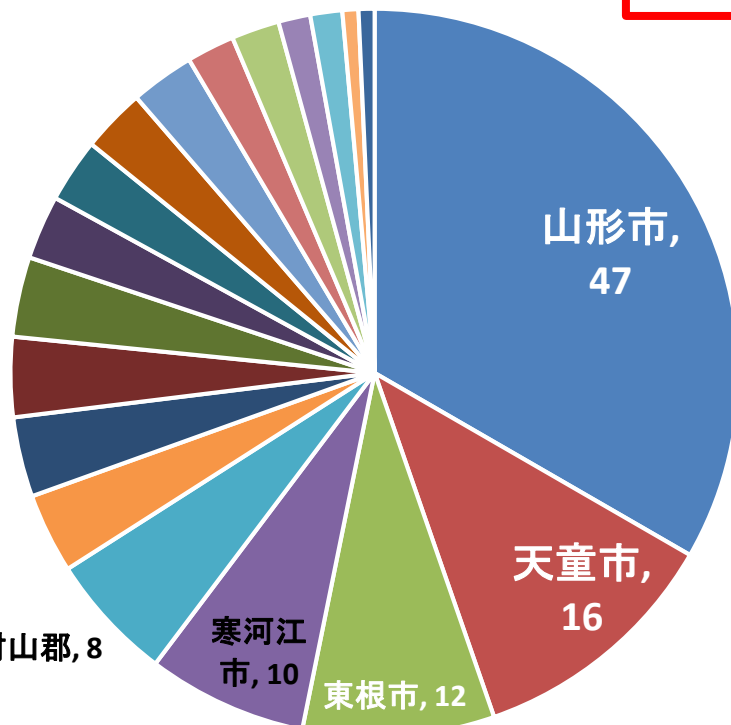
<第7回ストライダーエンジョイカップ（レースイベント）>

- ・前年はコロナ禍で中止、2年ぶりの開催
- ・コロナ禍対応で一時開催延期、県内限定としたため参加者減
（第5回 411人、第4回325人）
- ・平時は1,500人規模 ※参加者（1歳半～6歳）+ 付帯家族
- ・イベントの他、普及用の貸出用遊具として保育施設、大規模公園2ヶ所、
グリバーさがえ（最上川寒河江緑地）に設置 ※保育施設以外是有償レンタル



<第7回エントリー 132人>

市外：93%



地元企業との連携（コロナ禍対応で縮小）

<ムラサキスポーツ × 寒河江>

- ・子供向けグッズの提供（賞品協賛）
- ブース出展（各種子供向けスポーツ体験会）

<子育て情報誌「mamaid」 × 寒河江>

- ・子育て情報誌mamaid 9月号でストライダー特集
- ブース出展
- 誌面コーナー「街かどキャッチ」撮影

<山形銀行 × 寒河江>

- 当日スタッフ参加
- 子育て支援グッズの提供（賞品協賛）

スケートボード

※別紙④報告書有

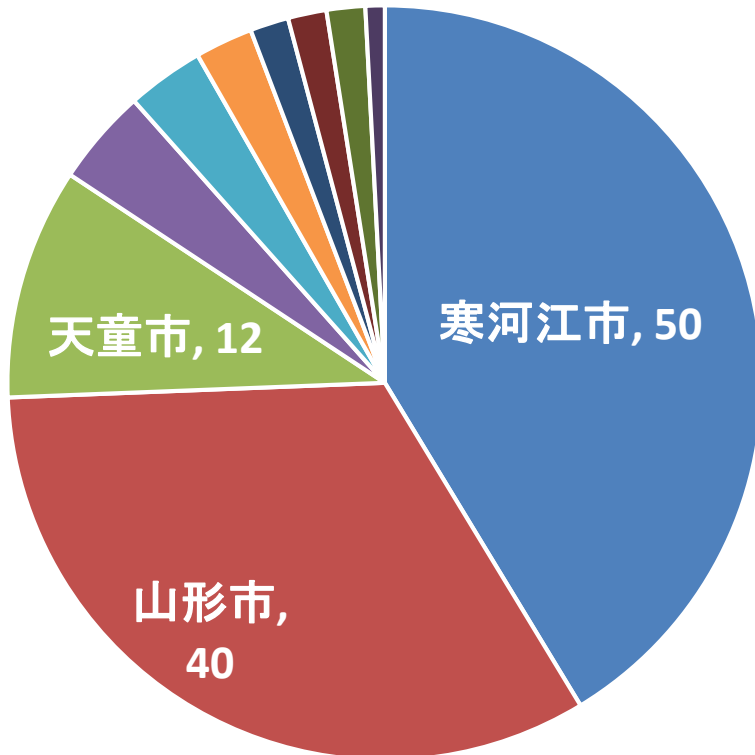
さがえ
未来
創成

＜サガエ スケートボード ビギナーズスクール＞

- ・ 寒河江市は東京オリンピックで韓国スケートボードチームのホストタウンであること、市内に東北最大規模のスケートパークを有すること等から、2018年からスケートボード教室を実施。
- ・ 2020年スポーツツーリズム事業としてリニューアル（2019年3回→2020年からは年6回）
- ・ AJSA（日本スケートボード協会）公認インストラクターや公認プロが指導
- ・ 普及のためグリバーさがえ（最上川寒河江緑地）に貸出用ボードを設置。
- ・ スクール受講者（父母含）のコミュニティ形成が進んでいる。

＜全6回 参加者計121人＞

市外：59%



B M X

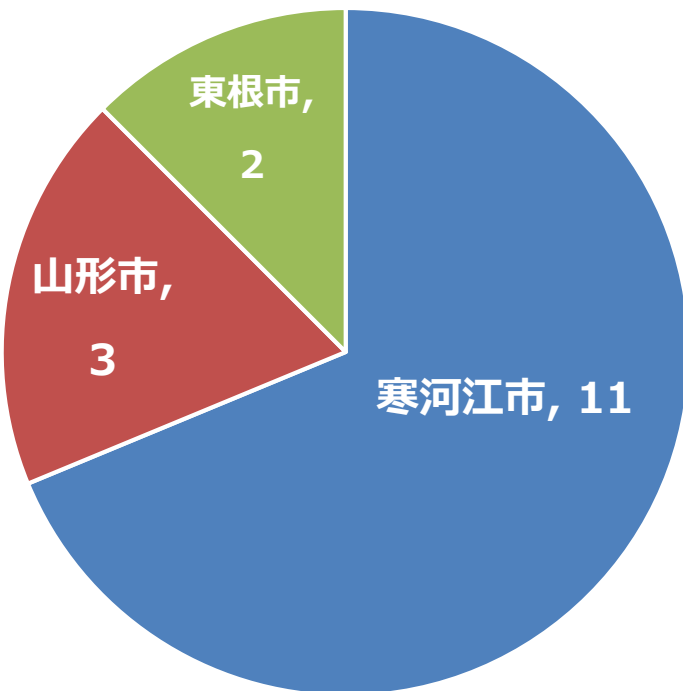
さがえ
未来
創成

<サガエ BMX スクール（初級者クラス）>

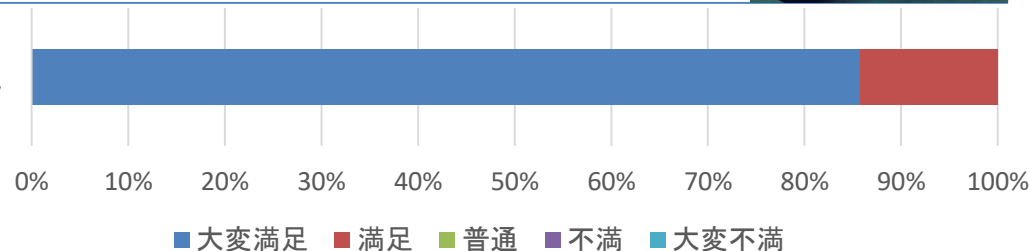
- ・市内スケートパーク利用者のうちBMXユーザーも一定層いること、オリンピックでの新競技として注目され機運が高まっていること等を受け、2021年にテスト事業として初実施。
- ・参加枠および参加者数は少なかったものの、実施後アンケート（下記参照）は好評で、2022年度以降の後継事業でもBMXに関する取組継続を検討していく。
- ・今後は市外からのプレイヤー呼び込みが課題の一つ。



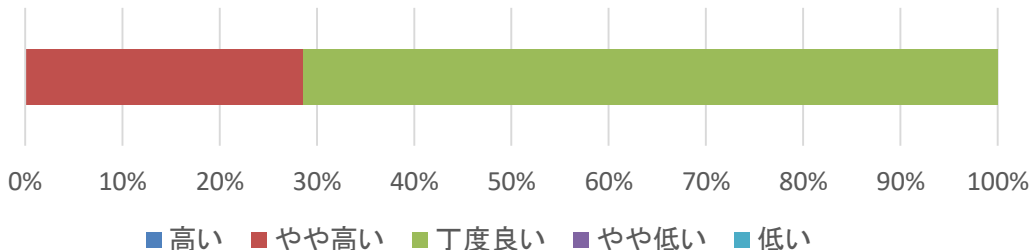
<全2回 参加者計16人 市外31%>



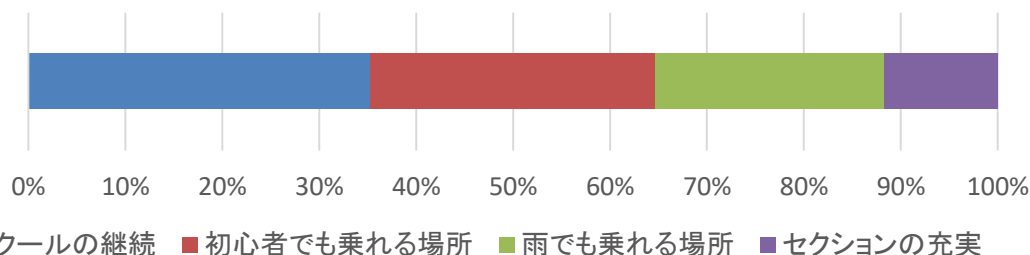
満足度



指導
レベル



BMXを
続ける為
求める事



トライアスロン

さがえ
未来
創成



<さがえトライアスロンフェスティバル>

- 会場が2020年7月28日最上川豪雨災害時に被災し、2021年度末まで復旧工事となり、実施されなかった。2022年は夏・秋の大会実施および指定強化選手合宿等を予定。
- トライアスロン＝水泳、自転車、長距離走の3種目をこの順番で行う競技で、オリンピック正式種目となっている。
- 寒河江市では2016年からスタート、JTU（日本トライアスロン連合）公認大会としてナショナルチーム選手（パラリンピック日本代表候補選手）等、2019年時は155人が参戦。2020年はコロナ禍により中止。
- トライアスロンの大会開催で一番リスクを伴うのが「水泳」。水位調整等が可能な水面広場を持つ「グリバーさがえ」はそのリスクを最小限に抑えることができるという特徴があり、特にパラリンピック選手の練習（合宿等）や、大会会場として期待されている。

シクロクロス

さがえ
未来
創成

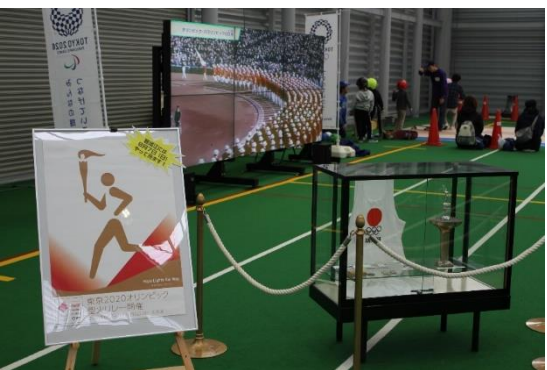
＜シクロクロスUCIレース＞

- 例年11月頃開催していたが、会場（グリバーさがえ）が2020年7月28日最上川豪雨災害時に被災、2021年度末まで復旧工事となり、実施されなかった。
- 今後は開催方法や協力団体の見直しなど、大会実施の在り方を検討していく。
- シクロクロス＝未舗装の悪路(オフロード)で行われる自転車競技で、急坂や障害板、階段など、乗車したまま越えることが不可能な障害物を、下車して自転車を担ぐことなどが特徴。晩秋～冬季がメインシーズンとなる。
- 寒河江市では2016年からUCI（国際自転車競技連合）の認定を受け開催しており、2019年開催時は、国内トップライダーを含む142人が参加（優勝者：男子全日本選手権（U23）チャンピオン・男子世界選手権日本代表）している。2020年はコロナ禍、2021年は施設被災により中止。
- ご当地グルメや特産品ブースも出店し、全国からの参加者より好評を得ていた。 11



さがえスポーツフェスティバル2022

さがえ
未来
創成



<さがえスポーツフェスティバル>

- 2022/1/29～1/30の開催を予定していたが、コロナ禍の影響により2年連続の中止。
- 寒河江市の屋内多目的運動場「チェリーナさがえ」にて、東京2020オリンピック・パラリンピック種目やニュースポーツ、ゆるスポーツ等の体験が出来る、東京2020参画プログラムのひとつ。
- 屋内運動場という施設の特徴を活かし、冬期間にはなかなかできないスポーツ体験の機会を創出する。
- 2020年の初開催時（2/1～2/2）には約700人が参加。

<体験種目>

- 東京オリパラ特設PRブース
（聖火トーチ展示、聖火リレー体験等）
- ボルダリング（☆）
- スケートボード（☆）
- ボッチャ（★）
- ゆるスポーツ（モルック等）

☆:オリンピック種目
★:パラリンピック種目

スポーツツーリズム推進事業/KPI

さがえ
未来
創成

<KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)>

事業目標値 (基準値比)

基準値 = 事業実施前 (2018年度) の値

内容	基準値	2019年度	2020年度	2021年度
①スポーツツーリズムに関するサービス利用者 (人)	8,750	11,330 (+2,580)	12,832 (+4,082)	14,444 (+5,694)
②スポーツツーリズムイベント参加者数 (人)	5,299	7,085 (+1,786)	7,926 (+2,627)	8,977 (+3,678)
③スポーツツーリズムイベント参加者のうち宿泊者数 (人)	972	1,335 (+363)	1,502 (+530)	1,702 (+730)

事業実績値 (基準値比)

○ = 目標達成 △ = もう少しで達成 × = 未達成

内容	基準値	2019年度	2020年度	2021年度
①スポーツツーリズムに関するサービス利用者 (人)	8,750	○ 11,153 (+2,403)	× 453 (-8,297)	× 3,563 (-5,187)
②スポーツツーリズムイベント参加者数 (人)	5,299	△ 6,660 (+1,361)	× 210 (-5,089)	× 2,928 (-2,371)
③スポーツツーリズムイベント参加者のうち宿泊者数 (人)	972	△ 1,260 (+288)	× 0 (-972)	× 30 (-942)

＜KPIおよびKPI以外の成果・検証＞

- 3つのKPIのうち、2019年度のKPI①は完全に達成、同年のKPI②③は達成とはなかったが、基準値より増となっており、一定の事業成果を見ることが出来た。
- 2020年度はコロナ禍の影響で大半の事業が中止、全KPI未達、KPI③は0だった。
- 2021年度はオンライン開催や、定員縮小等、コロナ禍に対応しながら事業を行い、一定の回復はしたものの、結果として全KPI未達成となった。
- ホストタウンであることを通じ、逸早くオリンピック新競技のスケートボード普及、AJSAとの関係強化を推進でき、オリンピックレガシーとして今後も積極的にスケートボードに関する事業展開を行える体制が整っている。
- スポーツイベントのオンライン開催や、スマートフォンアプリ等を活用したキャンペーン等に取り組んだことで、一過性のイベントだけでない、長期間参加者に楽しんでもらう、本市を訪れてもらうきっかけを作るアプローチなどについて知見を得ることが出来た。
- 単に「スポーツイベント参加者」だけの集客を狙った事業体制では、コロナ禍の様にイベントそのものが中止となった際、リカバリーが非常に難しく、ターゲットおよび事業体制を見直す必要がある。

＜後継事業「縁」JOYさがえ！～新時代スポーツツーリズム～＞

- 観光庁スポーツツーリズム推進連絡会議において、スポーツツーリズムに重要な要素として「スポーツを『する（楽しむ）』人だけでなく、『観る（観戦）』人と共に、周辺の観光要素やスポーツを『支える』人々との交流や地域連携も付加した機能」とされている。
- これまで寒河江市では「スポーツイベント参加者を増やし、参加者が市内に宿泊することで、宿泊に伴う観光消費を伸ばす」という観点で、『する人』をメインターゲットとし事業に取り組んで来たが、家族や友人等の付添い者（『観る』『支える』人）も楽しめるものとして、様々な楽しみ方『E N J O Y』の創造を目指す。
- さらに、『支える』地元市民との交流、SNS等で寒河江市の魅力を来訪客に能動的に発信させる取組、DXを活用した積極的な情報発信等を通じ、さらなる寒河江ファン・リピーターを育成し能動的な寒河江市への再訪・宿泊に繋がる関係性『ご縁』の構築を図る。
- スポーツに関わる全ての人がそれぞれの楽しみ方で（E N J O Y）、繋がって（ご縁）、新時代のスポーツツーリズムを形成していく『縁』JOY（エンジョイ）さがえ！』をコンセプトとし新たな取組を推し進め、市の魅力度・認知度を向上し、更なる観光消費拡大を目指す。